

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590700062		
法人名	株式会社 ホームケアサービス山口		
事業所名	グループホーム のんびり村 米川		
所在地	山口県下松市大字下谷字砂の本179		
自己評価作成日	平成26年8月28日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年9月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然の中で、ダイバーショナルセラピーの視点から「老いることは楽しむこと」「朝起きる目的をつくる」の理論の基に支援をさせて頂いています。また、米川ならではの地域との交流や、個人個人の楽しみや生きがいを見出せる生活を提供できることを目標としております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員が利用者と話をする機会を増やしておられ、聞き取りをされた個人の気持ちを大切にされて、一人ひとりの思いや意向を把握しておられ、利用者の誕生日に個別レクを取り入れられ、利用者の希望の馴染みの観光地や温泉などに出かけたり、好きな物を食べたりできるように支援されています。事業所は地域の米泉湖ボランティアグループに加入され、市内で開催される行事に職員が参加協力しておられ、事業所で行われる行事にボランティアグループの人が協力しておられるなど、交流を深めておられます。運営推進会議にはたくさんの地域の人(13名)が参加され、意見交換をしておられ、事業所の行事に協力されています。運営推進会議後に行われた土砂災害の訓練にも参加されている他、緊急連絡網に地域の方にも加入してもらわれ、災害時の地域との協力体制を築ように取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	できうる限り地域行事への参加、公共施設の利用、散歩を通じての地域の人々とのふれあいを積極的に取り入れている。又、職員にも理念を朝礼や会議等で確認、共有を行っている。	地域密着型サービスとしての法人の理念を事業所内に掲示している。朝礼の時やケアの中で理念の確認をして共有し実践につなげている。同一建物内にある小規模多機能型居宅介護施設と理念を共有している。	・事業所独自の理念の作成	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進委員会だけでなく、自治会にも入っており、地区清掃や行事の手伝い、実行委員会の委員会等にも参加させてもらっている。事業所のイベントへも主催者側として参加してもらっている。	自治会に加入し、総会への出席や地域の清掃作業へ職員が参加している。事業所は、米泉湖ボランティアグループに加入して、市内で行う行事に参加して協力している。事業所の秋祭りには準備からボランティアグループの協力を得ている他、地域の人が参加して交流している。利用者は小学校の入学式に来賓として出席したり、運動会に参加している他、地域の行事(神社の祭り、地蔵祭り、盆踊り、米泉湖サマージャンボリー、どんど焼きなど)や消防団の出初式に参加している。ボランティアの来訪(踊り、どじょうすくい、玉すだれ、ハーモニカ演奏)がある他、地域の人の協力でしめ縄づくりをしたり、ソーメン流しの竹の準備をしてもらっている。地域の人から野菜や花の差し入れがあるなど、事業所が地域の一員として日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会、行事やイベント等の参加時に認知症の方に対する質問や相談をうけることがある為、その都度対応している。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	取り組み状況等の報告や話し合いの中で頂いた意見や提案を速やかに行事や生活の中に活かさせてもらっている。	管理者が評価の意義について職員に説明し、評価をするための書類をスタッフルームに置いて、職員に記入してもらい、会議で話し合い、管理者がまとめている。記録の書き方の課題や医療に頼りすぎないで、予防に取り組むことなど自己評価を通して見えてきたことを次の取り組みの目標としている。急変や事故発生時に備えての訓練を継続して実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会時に限らず、日常でも地域の方からの意見を頂くので、相談をしながら取り組んでいる。	地域住民13名が会議のメンバーとなっており、同一建物内にある小規模多機能型居宅介護事業所と一緒に、2ヶ月に1回開催している。事業所の取り組みの報告や活動状況を映像で見てもらい、説明している。米泉湖ボランティアグループへの加入を勧められて入会し、職員が市内の行事に参加して協力している。事業所の行事にボランティアグループの協力が得られるなど交流が深まり、サービス向上にいかしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市より担当者の方以外からも、問い合わせや相談が多い為、密に情報交換を行っている。	市の担当課とは電話や出向いて相談をし、助言を得たり、情報交換をするなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターからの相談を受けたり、市主催のケアマネ連絡協議会や地域密着型サービス連絡協議会に参加して、情報交換をしているなど連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則、身体拘束はしない事を家族にも伝え、了承も得ている。職員にも、何が身体拘束になってしまうのかを、その都度指導している。但し、階段は非常に危険なので、エレベーターを使って頂くように声掛けや張り紙を行っている。	身体拘束や虐待防止、接遇などについて法人研修(講師が事業所に来て行う)を3ヶ月ごとに実施して、全職員が受講できるようにしている他、全体会議や朝の申し送りで話し合っており、職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックに気づいたときは管理者が注意している。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に社内研修として、虐待についての研修を行っている。特に、言葉による虐待は、日常的に指導を行っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に対しては現在なかなか学ぶ機会を作れていないが、権利擁護に関しては、自社が取り組んでいる「DT」でもっとも大切にしている内容なので、日常的に職員達と話し合いを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の特性や性質を利用者や家族に納得して頂けるまで何度も時間を作って頂き、説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や利用者からの要望や相談を受けた時は、必ずケアマネや管理者に報告をするように指導している。運営推進委員会や地域包括へ報告や相談も行いながら、運営に反映させている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に周知している。面会時や電話、運営推進会議などで、家族から意見や要望、苦情などを聞き、苦情報告書に記録して、ミーティングで話し合い、反映させている。「自宅の鍵がない」という利用者からの訴えがあり、すぐに家族に連絡し、家族の協力を得て自宅に帰り、写真や衣類を事業所に持ち帰って居室に家族の写真を飾るなどの対応をしたところ鍵の話は無く、落ち着いて過ごされるようになったなど、意見を前向きに受け止めて支援している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や、朝礼、又は定期カンファレンス時に意見や提案を話し合うようにしている。職員の前向きな意見は、なるべく反映できるよう努めている。	月1回の全体会議や3ヶ月毎の担当者会議（カンファレンス）、朝礼時などに職員から意見や提案を聞く機会を設けている。利用者のケアに対しての意見や洗濯機使用の時間帯について、節電についての意見などを反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自社にチームワーク賞の制度があり、年末に表彰がある。事前に個人面談を行うが、賞与が査定制なので、努力や実績で金額が変わってくる。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、人材育成に力を入れており、意欲的な職員は、法人内外の研修を受ける機会が増えている。（主に、自社が推し進めているDTWの習得）	外部研修は経験や段階に応じて参加の機会を提供し、3名の職員が受講している。「ダイバーショナルセラピー」の研修(5回コース)を1名終了し、現在1名受講中である。毎月、法人研修(講師が事業所に来て行う)があり、認知症、接遇、虐待、身体拘束、土砂災害などについて受講し、職員は研修報告書を提出している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を2カ月ごとに開催しており、管理者間の情報交換や交流は多い。また、年に1度は職員同士での食事会の交流も作っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの導入段階前に必ず本人と面接を行い、不安や要望を聞き出し、どういう支援が良いのかを話し合っている。また、その後もコミュニケーションを図りながら関係を構築している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人と一緒に、または別対応で面接を行い、ご家族の不安や要望を聞き話し合いを行っている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在のところ該当者がいないが、あれば本人やご家族と相談しながら他のサービス利用の紹介等を行う。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おやつや料理を職員と一緒に作って食べる等で、何かを共にするという時間をつくっている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自宅の事が気になる等の訴えがある時は、家族に連絡を取り一緒に本人の自宅へ行ってもらよう協力をお願いしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に、出来るだけ顔を見せてもらうよう呼びかけている。また、家族だけでなく本人の知人にも声をかけてもらうようお願いしている。個別レクやドライブを通し、出来るだけ馴染みの場所へ訪れる機会を作っている。	友人や知人、親戚の人の来訪がある他、個別レクとして、利用者の馴染みの場所や希望を聞いて観光地や温泉に出かけたり、好きな物を食べたりできるように支援している。手紙を書いて郵便局へ出かけたり、家族の協力を得て、お墓参りや法事への参加、自宅への帰宅などの支援をし、馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	イベント等は、全員参加して頂き一緒に楽しんでもらうが、食事のテーブル配置等は利用者同士の雰囲気をみながら配慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方達は現在他の施設に入られている為、連絡が出来ていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様やご家族様とコムにケーションを取り生活歴の把握に努め自己の希望に添うように努めている。	職員が利用者と話す機会を増やし、聞き取った個人の気持ちを担当する職員や主任に伝えている他、日頃の利用者の様子を経過記録に記録して思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は利用者の気持ちを推し量り、カンファレンスで話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本に様の聞き取りやご家族に協力を得て把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日のペースに合わせ本人の得意分野を活かしていく。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く、過ごせていけるように、本人、家族、担当者との話しをし現状に出来る限り近い計画を作成している。	3ヶ月に1回開催しているサービス担当者会議で、利用者の思いや家族の意向を参考にし、利用者を担当している職員、計画作成担当者、看護師、他の職員も参加して話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月に1回モニタリングを実施し、期間に応じた見直しをしている他、利用者の状態に変化が生じた場合はその都度見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルへの記録、職員間の連絡帳への記録に残し介護計画に活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日に好きな事をして頂く事と。業務の許す限り、出来る限り希望に添える様に取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域がら、地域との交流は盛んで、日々の散歩に保育園、郵便局に立ち寄る等の試みの協力を得ている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	自宅で住まれていた、主治医で居ただき定期的な受診にでかけている。	利用者其々のかかりつけ医の他、協力医療機関をかかりつけ医としている。家族の協力を得て受診の支援をしている他、協力医療機関から月2回の往診があり、緊急時対応の支援もある。看護職を確保し、受診時に看護師が利用者の情報を伝えて医師との連携を図っているなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師への口頭の連絡や、オンコールでの連絡看護ノートなどで連携を取っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時スタッフの付き添い、個人ファイルによる日頃の体調の申し送り等に努めるように心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については、現時点で当施設で出来る事を家族に説明し理解をえている。	重度化や終末期に向けた指針があり、契約時に事業所で出来る対応について家族に説明している。重度化した場合は家族や医師、関係者と話し合い、方針を共有して、支援に取り組むこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	熱中症や緊急の対応について定期的に研修会を行っている。ひやり・はつと事故報告の作成、検討会を行っている。	事故・ヒヤリハット報告書に、その場にいた職員が事故の発生状況や対応策を記録した後、申し送りして閲覧できるようにして全職員で共有している。法人の安全委員会(年4回)で報告や相談をし、ミーティングで話し合っ、一人ひとりの事故防止に努めている。年2回、地域の元救急救命士の指導で誤嚥、異物除去方法、止血法、心肺蘇生、熱中症、感染症(ノロウイルスの嘔吐物処理)などの応急手当や初期対応の訓練を実施している。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	土砂災害の訓練・出前講座の実施、夜間帯の避難訓練を行い指導を受けた。	年2回、消防署の協力を得て、昼、夜間を想定した避難訓練と消火訓練を実施している。土砂災害避難訓練を運営推進会議の日に合わせて行い、県土木の職員による出前講座「土砂災害について」を、市の人や運営推進会議出席者(13名)の参加して、受講している。緊急連絡網を作成し、地域の人2名に加入してもらい、協力依頼をしている。地域との協力体制を築くように取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	男性スタッフによる入浴介助に拒否のある利用者様に対し女性スタッフが関わる様にするなど配慮している。	法人研修で学び、職員は正しく理解している。利用者を人生の先輩として敬意を払い、本人のプライドを傷つけないように、本人の気持ちを大切にして、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないことを徹底している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	DT理論は自己決定を最重要視しているので、出来るだけ本人の思いや希望をくみ取るようにしている。くみ取るだけでなく、出来そうなら実行するよう努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就床時間等、本人のペースに合わせるよう努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容にきてもらい、本人の好きなようにカットやカラーをしてもらったり、時にはマニキュアを塗って出かけたりして頂いてます。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は委託なので、準備は出来ていないが時々料理を作って食べる時間を別に設けている。	事業所でご飯と朝食の汁物をつくり、おかずは三食とも法人の配食を利用している。利用者は、下膳やテーブル拭きなど絵お職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲み、職員は持参したお弁当を食べながら利用者と会話して、利用者が食事を楽しめるように支援している。日曜日の昼食(お好み焼き、お結び、鍋料理など)を利用者と職員が一緒に買い物に行き、野菜の下ごしらえや味付けなどを一緒にしてつくったり、夏にはソーメン流しを地域の人との協力でおこなっている他、家族を招いての食事会やお弁当を持って公園に出かけたり、個別の外出や家族との外出など、食べる事の楽しみを工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通して食事摂取量、水分摂取量を記録し制限のある方には調整を行ったり不足した方には様々な工夫をしながら摂取して頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは声掛けをしながら毎食後行っている。習慣になっているので、介助が必要な方以外は自主的にされている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排便コントロール時はやもうえず、リハビリパンツを使用いただく時もあるが、日中出来る限り布パンツで過ごして頂き、自立に繋がるように援助している。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導で、トイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の、散歩など運動して頂きながら自然排便に繋がるように心がけながら、運動で難しい場合はおやつ時、温かい牛乳を飲んでいただいて腸が自然に動く様にしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	イベントや行事、突然の外出等出来るだけ色々なことを利用者と一緒に楽しみたい為、入浴の時間や曜日は決めている。入浴の好きな方は個別で対応することは行っている。	入浴は日曜日以外の毎日、14時から15時30分ごろまでの間に、利用者の希望や状態に合わせて週3回の入浴を支援している。菖蒲やみかん、ゆずなどを入れたり、入浴剤を使い入浴が楽しめるように工夫している。入浴したくない利用者には、職員が交代したり、声かけに工夫して入浴出来るように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や休憩、就床時間は利用者本人に委ねている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を職員皆が見られるようにしている。また、看護師に薬の副作用の有無も聴きながら様子観察を行うようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ベランダや洗面台の掃除、散歩時の皆の見守り、編み物、針仕事等それぞれの役割があり、それを実践してもらっている。	テレビやDVDの視聴、新聞の購読、本や雑誌を読む、編み物、縫い物、習字、ぬり絵、貼り絵、体操、散歩、買い物、地域行事への参加、ドライブ、花見、来訪するボランティアとの交流、ベランダや洗面台の掃除、洗濯物たたみ、花の水やりなどの楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が張り合いのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	習慣として、悪天候以外は散歩や日光浴を行っている。また、米川は地域行事も多い為、外出の機会が多い。日常的には、突然のドライブもよく行う。	散歩や買い物、地域行事への参加、花見（桜、芝桜、つつじ、菖蒲、もみじ）、動物園、や公園、クリスマスイルミネーションの見物、ホテル見物などの他、個別レクで利用者の希望に合わせて外へ出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物、欲しい物はスタッフ同伴で、個別に買物に出かけ購入してもらうようにしている。その際、出来る限り自分で支払いをしてもらうようにしている。また、少額所持してもらっている方もおり、外出の際自由に使ってもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状や暑中見舞いは職員も手伝うが、自分で家族へ書いてもらっている。また、プレゼントのお例文等も本人が望めば書いてもらっている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた塗絵や貼り絵等の作品を共同で作成し、共有スペースに掲示している。また、散歩時に季節の花を摘んだり、ご近所から頂いた花を飾ったりし季節感を楽しんで頂いている。	共用空間の窓からは山に囲まれた集落が見える。ベランダの鴨井にはツバメがたくさん巣をかけ、ツバメが巣立つまでは毎日眺めるのが利用者の楽しみとなっている。室内は自然の光が差し込み、明るく広々としている。季節の花を生けたり、季節に合わせた作品を飾ったり、窓から見える自然の四季の移り変わりや季節を感じることが出来る。温度、湿度、換気、音などに配慮して利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	レクや散歩、イベント時以外は個人個人自由に過ごして頂いている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具は、自宅で使われていた物を持参してもらっている。また、買物時に好きな観葉植物等を購入してもらい飾ったりして頂いている。	仏壇、テレビ、整理ダンス、リクライニングの椅子、机、椅子、時計、ぬいぐるみなど使い慣れたものや好みの物を持ち込み、家族の写真や花、カレンダーなどを飾って、利用者が落ち着いて過ごせるように支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや、導線の確保、表札をつける等し、自立支援に努めている。		